

平成２３年度第２回社会教育委員会議会議録							
開催日	平成２３年７月２６日（火）			開会時間	１０時００分		
会 場	市役所５階 ５０２会議室			閉会時間	１１時３０分		
委員の 出欠状況	亀卦川 誠也	出	加藤 聡司	出	磯崎 茂	出	
	横溝 健	欠	木村 聡子	出	山形 克己	出	
	柳下 雅弘	欠	石田 康雄	出	富田 延子	出	
	○鳥飼 八五良	出	伊藤 芳夫	出			
	村山 喜三江	出	平松 あかね	出			
	北原 節子	出	◎ 大谷 鐵子	出	◎議長 ○副議長		
傍聴者	なし						
事務局	【教育委員会】大久保教育長、富澤教育部長 【生涯学習課】星野課長、亀井課長補佐、菊池統括主査、吉澤主事 永堀社会教育指導員 【スポーツ青少年課】富澤課長						
議 題	1 議長・副議長の選出について 2 和光市図書館協議会委員の選出について 3 社会福祉法人和光市社会福祉協議会評議員の選出について 4 社会福祉法人和光市社会福祉協議会理事の選出について 5 平成２３年度和光市教育行政の基本目標・重点施策・事業計画について 6 平成２３年度社会教育関係団体への補助金交付について 7 社会教育推進に関する意見交換について 【テーマ】「和光市の家庭教育力の向上」について 8 その他						

- 1 開会
- 2 委嘱式
- 3 あいさつ

○大久保教育長

社会教育委員の役割は、社会教育法第１７条に規定により、教育委員会が行う社会教育の振興について、研究調査、提言等を行うことが規定されている。社会教育委員は、地域において社会教育に関して、優れた知見を有する方々ですので、その知見を和光市の社会教育行政に反映させていただくことが期待されている。

社会教育活動の実態や地域のニーズを、市民サイドから客観的に把握していただき、地域住民の社会教育の期待や願いについて、市民と行政のパイプ役になっていただきたい。

高い見地からさまざまなご意見、ご提言を賜りますようお願いしたい。

○事務局

市民参加条例第 12 条第 4 項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開について説明。

2 あいさつ

事務局自己紹介

委員自己紹介

3 議題

(1) 議長・副議長の選出について

(和光市社会教育委員会議程第 4 条の規定により、任期は 1 年)

- ・議長 大谷 鐵子委員
- ・副議長 鳥飼 八五良委員

(2) 和光市図書館協議会委員の選出について

- ・山形委員

(3) 社会福祉法人和光市社会福祉協議会評議員の選出について

- ・加藤委員

(4) 社会福祉法人和光市社会福祉協議会理事の選出について

- ・村山委員

(5) 平成 23 年度和光市教育行政の基本目標・重点施策・事業計画について

○議長（議事進行）

○事務局

資料 1 「平成 23 年度和光市教育行政の基本目標と重点施策」に基づき説明。

○富田委員

資料 1 「平成 23 年度和光市教育行政の基本目標と重点施策」の P.1 の「個性を伸ばし生きる力を育む教育」についての説明はないのでしょうか。

○事務局

本会議は、社会教育推進の観点から、学校教育に関する事項の説明につきましては、省略させていただき、資料を提供させていただいている。

○事務局

資料 2 「平成 23 年度事業計画」に基づき説明。

○山形委員

近隣市や同規模の市町村と比較し、事業や予算の状況はいかがか。

○事務局

近隣市と比べ、予算については財政規模が異なるが、各市、生涯学習の推進に力を入れ、特色を生かした事業を展開している。家庭教育力の向上や放課後子ども教室に力を入れ、通常どおり予算が確保できていると聞いている。

○事務局

資料３「平成２３年度社会教育関係団体への補助金交付」について説明。

○磯崎委員

財政上の問題もあるかと思うが、平成２４年度以降の団体への補助金の交付に係る動向について事務局としての考えを教えて欲しい。

また、白子囃子は、市指定文化財となっているが、その他にささら獅子舞も市指定文化財となっている。ささら獅子舞が資料３に掲載されていないが、どのような意味があるか。

○事務局

平成２４年度以降の団体への補助金交付については、和光市人権教育推進協議会は、今年度交付にあたり、事業の見直しを図り、減額した。来年度は、今年度と同様の金額の補助金額を検討している。

ボーイスカウト和光団は、現在協議中であり、一年度毎に若干減額を検討。まだ、正式な決定ではない。

和光市ＰＴＡ連合会は、現在同連合会に所属している学校は、市内全１１校中６校。今後、交付に関し基礎的な計算方法を見直し、減額の可能性を含め、連合会と協議中。

白子囃子保存会は、今年度と同様の金額の交付を検討。

ささら獅子舞への補助金は、必要が生じた都度、修繕費を補助する予定。

○村山委員

和光市市民体育祭の参加者は、延べ５，０００人もの市民が参加。市民体育祭運営委員会への平成２２年度補助金額は２００万であったが、予算がギリギリの状態であった。市民体育祭は、市民が集る場所でもあり、地域交流の大切な場でもあるが、今後、更なる予算の減額予定はあるか。

○事務局

平成２４年度は、平成２３年度と同額で予算計上を考えている。

○村山委員

市の財政状況が厳しいことはわかるが、何が大切なのかということをご検討いただきたい。平成22年度予算額でも運営が厳しい部分があったので、なるべくであれば、考慮していただきたいと思う。

(7) 社会教育推進に関する意見交換について

【テーマ】「和光市の家庭教育力の向上」について

○事務局

家庭教育は、全ての教育の出発点であり、基本的な生活習慣や社会的なマナー、自立心、好奇心などを培う上で、重要な役割を担っている。

子どもの可能性を最大限に伸ばし、自立心のある子どもに育てるためには、親子の触れ合いや、コミュニケーションを深めるとともに、地域で行われる様々な体験活動等を通じて、豊かな心を培い、健やかに育むことが大切であり、時代に合わせた家庭教育の機会を提供していくことが求められている。

私たちの生活を取り巻く環境の変化や地域のつながりの希薄化など、家族のあり方が変わりつつあり、家庭教育力の向上を図るためには、行政だけでは限界があり、地域社会全体が協力し合い、子育て家庭を支える役割を担っていく必要がある。

社会教育委員会議では、テーマについて、委員の皆様からご意見を伺い、社会教育を推進する際の指針とさせていただきたい。

○北原委員

偏食のある子どもがとても多く、基本的な生活習慣としての食育を含め、家庭教育の重要性を改めて感じている。

市の事業では、里山体験教室も新規で実施しているが、こういう事業に参加する保護者は比較的教育熱心で、子どものことを考えている方が多いかと思う。このような事業を充実しても、参加しない子どもは野放しになってしまうので、学校を通して保護者へ家庭教育等の向上について教えていくことがよいのかもしれない。

○富田委員

親の育て方で子どもも変わりようがあると思う。最近では、おやじの会もでき、父親が子育てに参加する行事が増え、夫婦で子どもを育てていこうという傾向がある。

母親一人が子どもの教育に携わり、責任をもって頑張っている方もいるが、現状としては、かなりきついのではないかと感じる。子育ては、一人だけではなく、夫婦や地域で助け合って携わるべきである。最近の子どもたちは、地域の人でも知らない人と口をきいてはいけなさと教えられていることもあるので、子どもが大人と関わる機会が少なくなり、限られた大人としか関わることがない。たくさ

んの人との出会いや体験から、学ぶことはたくさんあるのでさまざまな年代の方と交流できる場が大切であると思う。

現在、子どもにローラースケートを習わせており、そのサークルの他の保護者からいろいろなことを学ぶことが多い。子どもたちは、親の言うことは聞かないが、年上のお兄さんやお姉さんの言うことは聞くので、家庭内だけでなく、地域を含めた教育が必要であると思う。サークルに通うことで、他の保護者との交流機会もあり、スポーツを通じた教育や子育てが大切であると思う。

○伊藤委員

地域のつながりの希薄化は、問題である。和光市は開発途中で、丸山台は急激な人口増加があり、地域のつながりの希薄化から、こちらからの問いかけに対し、拒否的な感覚の人が多い。以前であれば、地元の間人は、誰がどこに住んでいるということをお互いが知っていた。民生委員と新たな開発マンションを訪問すると、あたなちに教える義務はない、何の権限で訪問するのかと言う人もいる。

私の自治会の丸山台には、公立学校ではなく私学に進学する子どもがかなり多いため、地元に対して執着や期待がない。例えば、両親共に東京に勤めに行き、子どもも東京の私学に通っていると、和光市に何を求めているかという何もないという声もある。

今回、震災の状況を見ると、地域で共に助け合わなければ生きていくことができないと思った。地域とのつながりについて、本気で向かい合っていないといけない。

市内には自治会を持つ町内会は200弱、自治会連合会に加入しているのは、98。加入していない自治会は、名目だけで活動をしていないところもある。各委員の皆様はさまざまな活動をされているので、地域の方に声をかけていただき、地元と一体となってお活躍されることを期待したい。

(8) その他

5 閉会